



○生徒○

1 生徒の実態（アドミッション）

- ・義務教育段階の基本的な学力が身に付かないまま入学してくる生徒が多い
- ・コミュニケーション能力が身に付いていない生徒
- ・自尊感情が低く、指示待ち、受け身な生徒が多い

2 育てたい生徒の姿（ポリシー）

- ・地域や社会に貢献できる力を持った生徒
- ・基礎・基本の定着を図り、課題解決に向けて粘り強く取り組む生徒
- ・自己実現を目指し、在り方生き方を自ら考えて、努力・行動する生徒

●教育目標を達成する体制●

- 1 分掌業務等の平準化・効率化
 - ・主担当者に声を掛け合いながら「チーム上川」としてサポートする
- 2 全員が学級担任の意識を持つ
 - ・生徒や保護者の窓口は学級担任であるが生徒指導・学習指導を全職員でサポート
- 3 勤務時間を意識した働き方
 - ・なくしても支障のない業務はやめる（スクラップ&ビルド）
 - ・作成が目的化している書類を廃止する
 - ・授業づくりと生徒理解に集中できる時間確保

- 3つの柱
- ・地学協働
地域連携（授業・行事）「見える化」
 - ・DXハイスクール
教育活動前進 「現状から一歩前へ」
 - ・高大連携
連携事業活用 「生徒の進路実現へ」

基本方針

「地域の地域による地域のため」の学校

～地域を知り 地域を学び 地域を創る～

- ★地域資源（ひと・もの・こと）を最大限活用した教育活動の推進

★「伝統の継承」と「学びの前進」

業務見直し	質
授業改善	発展

◆育てたい生徒の姿に向かう手だて◆

1 「学びの保障」

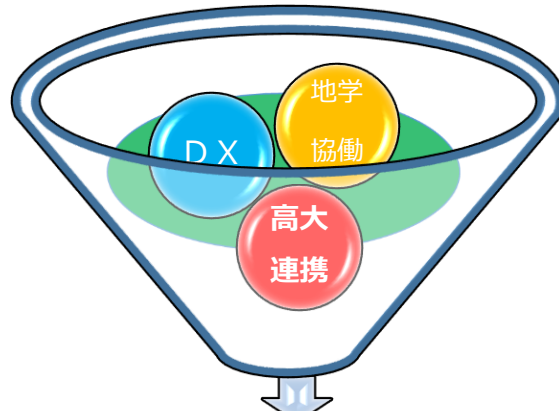
日々の授業と進路実現
基礎学力の定着と非認知能力の育成
個別最適な学び（学習保障）

2 「地域連携」

上川町・関係機関・CSの連携
異校種間連携（こども園・小学校・中学校）
高大連携（上川サテライトの有効活用）

3 「生徒の成長を止めない」

規範意識の醸成とマナーの理解・モラル教育
丁寧な個別面談と情報共有
興味・関心を引き出す工夫



地域を知り 地域を学び 地域を創る

○学校○

1 学校の実態（ミッション）

- ・連携型中高一貫教育校を支える連携中学校からの入学率と総入学人数の確保が課題
- ・地域の学校として、地元自治体にとっては重要な存在との位置付けとなっている

2 目指す学校像（ビジョン）

- ・挑戦し続ける生徒を育てる学校
- ・個性の伸長を図ることのできる学校
- ・地域の未来を切り拓く人材を育成し、地域から期待される魅力ある学校

●目指す教職員の姿●

- 1 生徒の良さや可能性を引き出し、伸ばすことができ、柔軟な発想や思考力を持つ教職員
- 2 地域の一員としての教職員
- 3 地域と協働し、人材の育成や課題解決に取り組む教職員



令和8年度

北海道上川高等学校 <<授業改善による学力向上の取組>>

スクール・ミッション

- 異年齢の集団による活動を通じて、自らの個性を伸長するとともに社会性や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成
- 地域（唯一）の高校として、地域の教育的資源を活用した教育活動を通じて地域の未来を創っていく生徒の育成
- 「地域の 地域による 地域のため」の高校として、多様な人々と主体性を持って協働して学ぶ生徒の育成

エビデンスに基づく資質・能力育成

基本方針

「地域の地域による地域のため」の学校

～地域を知り 地域を学び 地域を創る～

★地域資源（ひと・もの・こと）を
最大限活用した教育活動の推進

★「伝統の継承」と「学びの前進」

業務見直し	質
授業改善	発展

現状の問題点の認識・共有

【学力把握のツール】

- 入試・基礎力診断テスト・CBA
- ・生活習慣の見直し（家庭学習）
 - ・基礎的な知識定着（学び直し）
 - ・失敗貯金の必要性
 - ・自己肯定感を高める

PLAN

改善計画の実施・授業改善

【実施・改善ツール】

- ICT活用・地域資源活用
エージェンシー育成
- ・「伴走型」から「自走型」へ
 - ・自己指導能力の育成
 - ・「指導」と「支援」

DO

授業改善
学力向上
サイクル

CHECK

【課題共有・改善策のツール】

- 学習スタイル診断分析・SWOT
- ・「強み」と「弱み」把握
 - ・効果的な学習方法確立
 - ・非認知能力育成

ACTION

課題の共有と改善策の検討

【学習成果の把握ツール】

- 授業評価・学校評価・CBA
- ・探究サイクルによる学び
 - ・授業評価・学校評価活用
 - ・定量的分析と定性的調査

STUDY

学習成果の把握